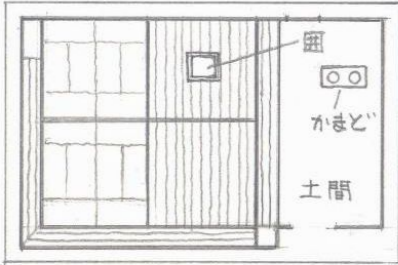


陽春
4月

・ツバメが飛来するころ — みどりのオアシス「屋敷林」

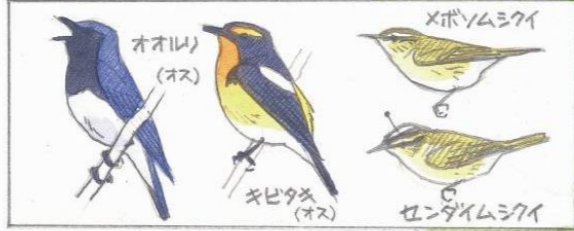
みどりの島のように市街地の中に残る「屋敷林」。古くから、防風や自然の恵みを得るために、家の周りに育てられた林です。今、大きく育った木々は、いさもたちのいのちを支える貴重なみどりです。

・すすめのお宿緑地公園 昭和の始めころ、この竹林は、たくさんのスズメがねぐらをとりに集まるので「すすめのお宿」と呼ばれた。夕方には数千羽のスズメで空が暗くなるほどだったとか…。



・古民家 公園内に移築された古民家。1970年代まで八雲の栗山家母家だった。4月中ごろから鯉のぼりが泳ぐ。

・この時期、新緑の葉かげには渡りの途中の夏鳥が見られる。
・こんな出会いも…「オオレイ」4月下旬の早朝、高い木の梢でさえずるオオレイを目撃！美しく歌う。(腐番・自然通信員)



・「オオレイ」スズメ目、ヒタキ科 全国の山地で巣を作り冬は南国に渡る。春秋の渡りの時期に区内でも見られる。



・屋敷林に残された武蔵野の野草(碑文谷)

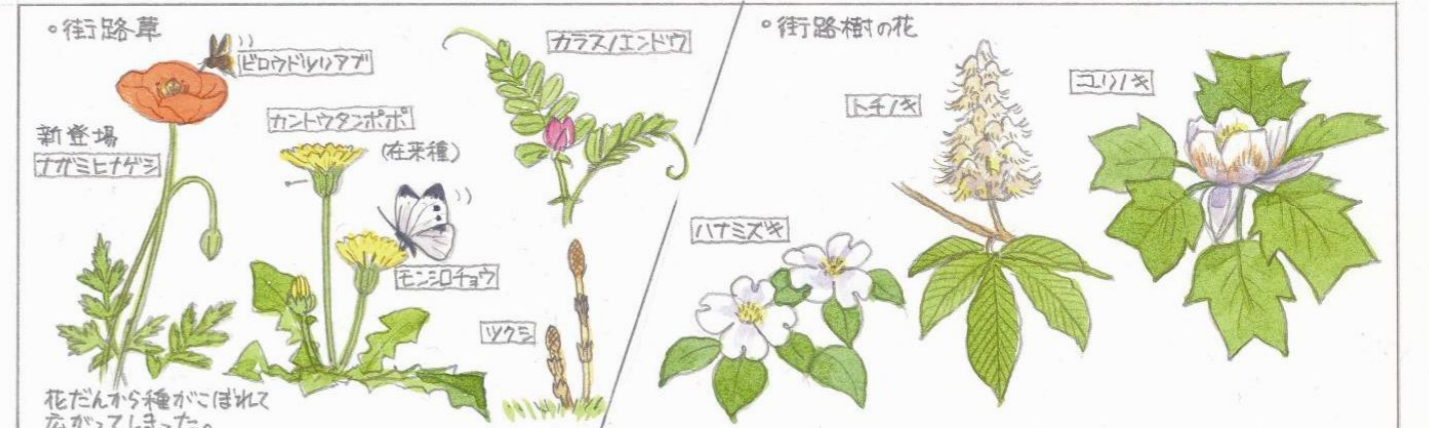


・かまどの煙 土間にあるかまどには、今でも毎日火が入られ、その煙でいぶされて建物が守られる。自然の力を活かす知恵がある。

・宮野古民家自然園 樹齢200~250年のケヤキやムクノキが雄大に枝を広げる屋敷林。武蔵野の原風景を今に伝える。希少な緑地(野鳥の繁殖地)。



・群れで行動する「オナガ」高木を伝い樹林や庭地で餌をとり休息する。「ゲーイ、ゲーイ」と鳴く。
・サレジオ教会を望む碑文谷の桜並木。



・街路草

・街路樹の花